# 元気な地域づくり計画の事後評価結果及び改善計画を公表します

小国町では、平成17年度に「元気な地域づくり計画」を策定し、「元気な地域づくり交付金」により、ソフト事業(地域連携システム整備)及びハード事業(農道整備)を実施してきたところですが、元気な地域づくり交付金実施要綱及び実施要領の規定により、同計画の事後評価結果の公表が必要となっておりますので、下記のとおり公表します。

【ソフト事業】

実施年度：平成17年度

実施地区：小国地区

実施内容：体験教育ツーリズム、九州ツーリズム大学、おぐに自然学校等の開催

お問合せ先：小国町役場 商工企業促進課 商工観光係 (TEL 0967-46-2113 直通)

【ハード事業】

実施年度：平成18年度～平成20年度

実施地区：小国地区

実施内容：農道(秋原線)整備 L=1,102m

お問合せ先：小国町役場 農林振興課 農林土木係 (TEL 0967-46-2112 直通)

（参考様式5）

# 平成17年度　元気な地域づくり計画　目標達成状況報告書

| 都道府県名 | 市長村名 | 地区名 | 計画期間 | 事業実施期間 |
|---|---|---|---|---|
| 熊本県 | 小国町 | 小国地区 | 平成17年度～平成20年度 | 平成17年度～平成20年度 |

平成21年 6月現在

1　施策ごとの評価

（1）ソフト

ア　施策の内容：

①地区名：小国地区
②対策名：地域連携システム整備
③事業実施期間：平成17～19年度
④事業メニュー：グリーンツーリズム推進のための地域の自主的な取り組み
⑤実施内容：町内や都市部での開催、ワークショップの開催等
⑥事業実施主体：(財) 学びやの里

イ　施策の実績

体験教育ツーリズムとして北九州からの中学校を受け入れ、2泊3日の農村体験を実施(3ヶ年述べ11校1,680名を約90戸の農家で受け入れ)。九州ツーリズム大学の開催(9･10･11期生)。3ヶ年述べ52回の自然学校の開催。

ウ　施策の効果

体験教育ツーリズムの開催に向けて、受け入れ農家の育成を行い、農村体験を行った結果、農林業や農山村の価値についての認識が深まると共に、都市部との交流が盛んになり、農家、学校の双方から高く評価され、年々希望する学校が増加している。

(2)ハード

ア 施策の内容:

①地区名:小国地区
②対策名:農業生産基盤整備
③事業実施期間:平成18～20年度
④事業メニュー:農道整備
⑤実施内容:農道工 L=1,102m
⑥事業実施主体:小国町

イ 施策等の実績

(ア)実施計画達成状況

| 事業種類 | 事業内容 | 助成対象施設等 | 事業実施主体 | 管理主体 |
|---|---|---|---|---|
| 農業生産の基盤の整備 | 農道整備 | 農道秋原線 | 小国町 | 小国町 |
| 事 業 量 | | 事業着工年度 | 事業竣工年度 | 供用開始日 |
| 農道工 L=1,102m | | 平成18年度 | 平成20年度 | 平成21年 4月 1日 |

＊ 以下、事項欄や(イ)施設等の利用実績については、該当なしのため削除

ウ 施策の効果

平成18年度から平成20年度の3ヶ年で改良延長L=1,102mの工事を施工したが、車両や農業用機械の通行がスムーズになり、幅員が狭く支障を来たしていた農業生産物や生産資材の搬入、搬出についても解消されたと言える。

また、事業計画に基づき事業を実施した結果、計画どおり事業も完了し、当初の目標は達成されたと言える。

## 2 指標の達成状況

| | 指　標 | 計画策定時 | | | | 点検時 | | 達成率 B/A | 備　考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 基準値 | 目標値 | 目標年度 | 成果目標値(A) | 実績 | 成果(B) | | 実績値の算定根拠 | 未達成の要因 |
| 必須 | 都市農山漁村交流施設等における滞在者数(宿泊者数を除く)の増加率(人) | 355,000 (16年度) | 358,000 (19年度) | 19年 | 100.8% | 326,000 (19年度) | 91.8% | 91.1% | 小国町調査(平成19年度熊本県観光統計) | 本町への来訪者の殆どが乗用車利用の為、近年の原油価格高騰による影響が大きいと考えられる。 |
| 必須 | 農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され機能が確保された農地の増加面積(ha) | 0 (17年度) | 15.8 (20年度) | 20年 | 15.8 | 15.8 (20年度) | 15.8 | 100.0% | 小国町調査(農道L=1,102m改良したことにより、機能確保された農地面積15.8ha(実測)の目標を達成できている) | |
| 地域 | 体験教育ツーリズム受け入れ回数(回数) | 3 (16年度) | 5 (19年度) | 19年 | 2 | 6 (19年度) | 3 | 150.0% | 小国町調査(H17から始まり高評価を受け、現在は北九州地区を中心に参加校も増加している) | |
| 地域 | 体験指導者養成数(人数) | 3 (16年度) | 6 (19年度) | 19年 | 3 | 9 (19年度) | 6 | 200.0% | 小国町調査(毎年2回の養成講座を実施しており、養成者数も目標以上となっている) | |

＊元気な地域づくり計画書(参考様式1)の「3. 目標を定量化する指標(数値目標)」から転記する。
＊成果については、都道府県実施計画書(参考様式2)の「2. 具体的内容」の目標を定量化する指標の増減から転記する。
＊算定根拠は、指標項目に併せてそれぞれ点検時実績値の算出方法を記載する。(実績値等)
＊B／Aは進捗率として、%表示とする。進捗率は点検時実績／目標値で計算し小数点第1位までを記載する。
＊進捗率の記載については、計画書通り又は計画以上の結果が出ているものについては未記入。なお、進捗率が悪い場合とは、計画スケジュールに対して進捗率が低い場合や事業実施期間に対する点検時に比べ、進捗率が低い場合など。
＊地域の項目は地域提案指標を記載する。
＊指標項目が不足する場合には行を追加して記載すること。

(コメント)

必須(滞在者数):目標値358千人(101%)に対して、事業完了年度は若干の減少があり326千人(91.1%)となっている。近年の景気低迷と原油価格高騰により、マイカーでの来訪者が減少したことが大きな原因と思われる。また、H17において本町は激甚な災害を受け、様々な箇所が被災し、各種イベントの休止等もあり観光客が減少したとも考えられる。
今後、休止されていたイベント等の再開、ツーリズム大学卒業生との連携、魅力ある交流活動づくり等、観光客を本町に再訪させる魅力作りを積極的に行っていく。

必須(農地面積):施行延長L=1,102mにおいて、改良工事が完了し、受益農地の機能が確保されている。

選択(体験教育ツーリズム受け入れ回数):H17より北九州からの中学校を受け入れ、農村体験を実施しているが、参加校より高評価を受け、年々参加校も増加している。

選択(体験指導者養成数):農泊受け入れをおこなう者を対象に講習会をおこない、指導者の育成に努めている。

## 3 目標の達成状況に関する評価

目標1：体験教育ツーリズムの促進(ソフト事業)
・H17年度の2校358人から始まり、自ら体験することにより農山村を理解すると参加校より高評価を受け、H20年度には8校1,294人まで増加している。

目標2：受け入れ農家の育成(ソフト事業)
・体験教育ツーリズムと同じく農家からも高評価を受け、地域に住む誇りが持てるようになり、受け入れ農家も増加している。

目標3：ツーリズム情報の受発信の促進(ソフト事業)
・ツーリズム主体として行ってきた取り組みを地域、都市、次世代に向けて発信する為の情報誌も発行されており、財団法人学びやの里やツーリズム協会を中心に各観光施設、農家レストラン等と協力し、情報発信を継続して行っていく。

目標4：農業生産基盤の確立(ハード事業)
・農道を改良したことにより、車両や農業用機械の通行、農産物や生産資材の搬入搬出がスムーズになり、農業生産の基盤が確立されている。

## 4 総合評価

人口9,000人弱の小さな町であるが、従来の物見遊山的観光のみならず、ラーニング（学習）すなわち農村ツーリズムを早くから重要視した活動に取り組み、グリーン・ツーリズムの先進地として評価を得ている。
都市部住民との交流は、農山村の地域資源や価値を都市部に伝える有効な手段であり、その教育効果に注目した学校の受け入れの増加が今後も期待される他、地域イメージの向上にも役立つことから、観光客さらには企業による農業参入にも貢献できるものと思われる。
このためには地域農業の持続と発展が前提として求められる。そのためにも農業基盤整備（農道整備）に取り組み、その目標を達成した。
農村交流及び農業基盤整備の推進により農家の所得向上が図られる他、都市部住民との交流をきっかけに自分の暮らしに誇りが持てるようになり、それが農村の活性化につながると思われる。

以上により、スモール・イズ・ビューティフルのまちづくりが推進できたと言える。

## （都道府県の意見）

（別紙のとおり）

（補足資料）レギュラーガソリンと入込客数の推移

| 熊本県 | 時期 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 | 来訪者数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H16年度 | ガソリン価格 | 107 | 108 | 113 | 114 | 115 | 120 | 119 | 119 | 119 | 117 | 117 | 117 | 115 | |
| | 小国町来訪者数 | 65,847 | 87,947 | 63,515 | 73,719 | 108,837 | 71,305 | 77,588 | 82,297 | 61,061 | 57,003 | 54,723 | 63,592 | 72,286 | 939,720 |
| H17年度 | ガソリン価格 | 122 | 125 | 125 | 126 | 130 | 132 | 132 | 133 | 130 | 130 | 131 | 132 | 129 | |
| | 小国町来訪者数 | 84,736 | 96,831 | 72,232 | 83,029 | 123,967 | 83,826 | 89,264 | 96,695 | 65,169 | 68,818 | 67,272 | 83,096 | 84,578 | 1,099,513 |
| H18年度 | ガソリン価格 | 132 | 137 | 137 | 138 | 145 | 145 | 142 | 138 | 136 | 134 | 131 | 130 | 137 | |
| | 小国町来訪者数 | 83,325 | 104,393 | 69,711 | 85,389 | 133,364 | 82,303 | 99,302 | 102,606 | 68,536 | 70,630 | 67,548 | 83,681 | 87,566 | 1,138,354 |
| H19年度 | ガソリン価格 | 134 | 139 | 140 | 143 | 148 | 145 | 146 | 151 | 155 | 153 | 152 | 153 | 147 | |
| | 小国町来訪者数 | 87,520 | 98,325 | 65,592 | 69,552 | 131,686 | 84,393 | 91,672 | 97,952 | 63,898 | 69,006 | 60,042 | 76,304 | 82,995 | 1,078,937 |
| H20年度 | ガソリン価格 | 130 | 160 | 172 | 182 | 187 | 177 | 166 | 137 | 118 | 107 | 110 | 112 | 147 | |
| | 小国町来訪者数 | 64,455 | 74,429 | 51,056 | 65,661 | 114,896 | 69,428 | 72,070 | 81,984 | 47,750 | 54,487 | 48,248 | 65,209 | 67,473 | 877,146 |
| H21年度 | ガソリン価格 | 114 | 117 | 120 | 125 | | | | | | | | | 119 | |
| | 小国町来訪者数 | （未調査） | | | | | | | | | | | | #DIV/0! | |

資料：石油情報センター「給油所石油製品市況調査」より作成
ホームページ：http://oil-info.ieej.or.jp/price/price.html

目標年度（H20，調査統計はH19年度実平均）147円

計画年度（H16年度）平均　115円

年平均で32円上昇、比率にして27.8%の増加

（参考様式５）

# 熊本県元気な地域づくり計画目標達成状況報告書

平成２１年６月現在

| 計画名 | 市町村名 |
|---|---|
| 小国町<br>元気な地域づくり計画 | 小国町 |

1　目標の達成状況に対する県の所見

（１体験教育）北九州市の中学校から継続的な受け入れをおこない、H17年度の2校358人からH20年度は8校1,294人に達した。大きな成果をあげている。
（２受入農家）目標を上回る９名の体験指導者を養成した他、ファームステイに対応できる農家もH17年度の83軒からH20年度は117軒に増加した。さらに小国町初の旅館業法に基づく農林漁業体験民宿がH20年度に１軒開業しており、担い手育成で高い実績が認められる。
（３情報発信）各種パンフレットはもとより、コミュニティＦＭラジオ局、町内有志によるフリーペーパーWEGの刊行、インターネット（ガズームラブログプロジェクト）への参加等、先進的な手法による情報発信がおこなわれている。

2　事業の達成状況に対する県の所見

（１滞在者数）：目標値358千人に対し、実績は326千人（目標比91.1%、Ｈ１９観光統計）で、達成できなかった。
県は小国町を含む阿蘇地域を都市農村交流重点地域と定めており、小国町の都市農村交流活動について支援を図っている。補助事業等の活用により今後の目標達成は十分可能と考える。
（２受入回数）：北九州市の中学校をH19年度に６回、H20年度に８回受け入れた。目標に達している。
（３指導者養成）：指導者育成の研修会を年２回開催し、目標６名を上回る９名の指導者を養成した。目標に達している。
（４農地の増加面積）：農業生産基盤の確立は道路を改修することによって目標を達成している。

3　その他の目標等の達成状況に対する県の所見

高い企画調整能力を持つ事業主体（財団法人学びやの里）を中心に、学習（九州ツーリズム大学）と交流（地域づくりインターン・体験教育旅行受入）を柱とした地域づくりが展開されている。大学で県内外から滞在客を集め、集落点検や体験実習等をおこなうことで、町民と町外民、都市住民と小国町住民によるお互いの交流と、個々の学びに繋がっている。　特に後者は住民の地域おこしに対する意識向上、横の連携、実践スキル取得に役立っており、地域連携システムづくりに大きく貢献している。ハード事業については、農道が改修されたことによって、農耕車両及び農業機械の通行、農産物及び生産資材の搬入搬出がスムーズになり、農業基盤の確立が図れている。
よって、ソフト事業及びハード事業の全ての目標は達成できていると考えられる。

4　総合評価

1997年に開校した九州ツーリズム大学は、H20までに約1,700名の卒業生を送り出し、小国町・阿蘇地域のみならず九州全域の都市農村交流活動の担い手育成に貢献している。各地で地域づくりに取り組んだり、都市部でグリーン・ツーリズムの啓発や周知に取り組む卒業生も多く、それにより小国町の農村の魅力が広く伝わり、高評価が評判を集め滞在者数の確保に役立っている。
また、12年にわたり都市と農村との対流・共生の機会を小国町住民にもたらした事で、町の継続的な地域づくりに貢献している。
以上により、テーマ「スモール・イズ・ビューティフルのまちづくり～ラーニング・バケーションを中心に～」の推進ができたといえる。

（参考様式）

# 熊本県　元気な地域づくり計画書　改善計画

平成２１年９月１８日作成

| 計画主体名 | 都道府県名 | 市町村名 | 地区名 | 計画期間 | 実施した施策の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 実施期間 | 事業内容（メニュー） | 事業量 |
| | 熊本県 | 小国町 | 小国 | 平成　17年<br>～　20年 | 平成　17年<br>～　20年 | 地域連携システム整備<br>（都市農村交流事業） | |

## 1　元気な地域づくり計画の目標

| テーマ | スモール・イズ・ビューティフルのまちづくり |
|---|---|

目標１：体験教育ツーリズムの促進（ソフト事業）

目標２：受け入れ家庭の育成（ソフト事業）

目標３：ツーリズム情報の受発信の促進（ソフト事業）

目標４：農業生産基盤の確立（ハード事業）

上記目標に対する達成状況

目標１：体験教育ツーリズムの促進（ソフト事業）

H17年度に2校（358名）を受け入れ、H20年度には8校（1200名）にまで伸ばしている。また双方向交流を目的として中学校の文化祭への参加を行い、農産物の直接販売等も行っており、より深い地域間交流として継続させている。

目標２：受け入れ家庭の育成（ソフト事業）

受け入れ家庭を対象に事故や食中毒などを起こさないため各種講習を行っている。20年度には民泊許可取得に向けたセミナー等を行い、民泊の取得家庭を増やしている。

目標３：ツーリズム情報の受発信の促進（ソフト事業）

ツーリズムを含む地域情報を発信するためフリーペーパー等により来訪者向けの情報発信を行ってきたが、平成19年度からトヨタ自動車・九州のムラへ行こう編集部等と連携したインターネット（ブログ）での地域情報発信「Gazoo mura」による情報発信も行っている。

目標４：農業生産基盤の確立（ハード事業）

目標が達成がされなかった要因

平成17年に小国地域で大規模な土砂災害が発生し、観光客のキャンセルやウォーキングイベント等集客イベント等の中止があり、入り込み客をふやすことができなかった。（当時、愛知万博の影響もあり九州全体で入り込み客が減少している）

平成18年以降もガソリン代の高騰や不況の影響により、小国町全体での入り込み客が減少傾向にある。

阿蘇地域全体のリピーターは一定数確保できているが、他市町村の観光施設との競争も激しくなっている。

目標達成に向けた方策

| 目標達成年度 | 22年度 |
|---|---|
| 全体計画 | （計画主体としての方策）<br>持続可能な滞在型観光地として生き残るため、過度の集客を見込んだ乱開発を防ぎながら、入り込み客の増加を目指す。<br>農村体験希望校は年々増加傾向にあり、22年度には北九州市の中学校等10校の受入を計画している。このような学校の定着化と、再訪を促す取り組みを町全体で行う。<br>九州大学との官学連携による森林浴コースとして旧国鉄宮原線跡地が注目され始めており、個人客だけでなくツアー客の獲得が期待できる。滞在時間を延ばすためにも積極的に活用する。 |
| 年度別計画 | １年目（21年度）：<br>農村体験ツーリズム参加校を8校確保する<br>施設パンフレット等の作成<br>町内の有力観光地から地元朝市など草の根的イベントにまで、町全体の連携強化 |

| | |
|---|---|
| | 宮原地区のタウンツーリズムの展開、国鉄宮原線廃線跡活用検討<br>平成17年を最後に中止となっていたウォーキングイベント「ツーデーウォーク（旧ツーデーマーチ）」を実験的に復活させる<br><br>２年目（22年度）：<br>農村体験ツーリズムの参加校10校程度に増やす<br>町内の有力観光地から地元朝市など草の根的イベントにまで、町全体の連携強化<br>国鉄宮原線廃線跡の旅行商品化（JR九州等との連携）<br>ツーデーウォークの継続開催<br>阿蘇カルデラツーリズム等九州新幹線全線開業を向けた取り組みとの連携（イベント開催等） |

## ２　目標を定量化する指標

| | 成果指標 | 計画策定時 | | | | 計画満了時 | | | 達成率 | 指標が達成がされなかった要因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 成果目標（A） | 基準値 | 目標値 | 目標年度 | 満了時成果（B） | 実績値 | 算定根拠 | （B/A） | |
| 必須 | 都市農山漁村交流施設等における滞在者数(宿泊者数を除く）の増加率（人） | 100.8% | 355,000 | 358,000 | 19年 | 91.8% | 326,000 | 都市農村交流施設等滞在者数（小国町調査） | 91.1% | 平成17年に小国地域で大規模な土砂災害が発生し、観光客のキャンセルやイベント等の中止があり、入り込み客をふやすことができなかった。<br>平成18年以降もガソリン代の高騰や不況の影響もあり、町内全体での入り込み客が減少傾向である。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 農業用用排水施設等の整備・保全により条件整備され機能が確保された農地の増加面積（ha） | 15.8 | 0 | 15.8 | 20年 | 15.8 | 15.8 | 小国町調査（農道L=1,102m改良したことにより、機能確保された農地面積15.8ha(実測）の目標を達成できている） | 100.0% | |
| 選択 | 体験教育ツーリズム受け入れ回数（回数） | 2 | 3 | 5 | 19年 | 3 | 6 | 小国町調査（H17から始まり高評価を受け、現在は北九州地区を中心に参加校も増加している） | 150.0% | |
| | 体験指導者養成数（人数） | 3 | 3 | 6 | 19年 | 6 | 9 | 小国町調査（毎年2回の養成講座を実施しており、養成者数も目標以上となっている） | 200.0% | |

成果目標：計画を策定した時点での成果指標（目標増減(増減率等)）
基 準 値：計画を策定した時点で基準とした値
目 標 値：計画を策定した時点で目標とした値
算定根拠：出来るだけ詳細に記載の上、参考としてバック資料を添付
達 成 率：計画を策定した時点での成果と比較した値(下２桁)

指標達成に向けた方策

| 指標達成年度 | 22年度 |
|---|---|
| 全体計画 | 《未達成の指標：入り込み客数の増加》<br>（計画主体としての方策）<br>持続可能な地域づくりのために居住者にとっても来訪者にとっても居心地のよい、地域資源を活かしたツーリズムの推進を行う。<br>地域資源の活用のため、九州ツーリズム大学や（財）学びやの里に関わりのあるツーリズム実践者のネットワークを積極的に生かす。<br>また交流人口の質的向上を目指し、小国地域へのリピーター育成を推進していくほか、主たる来訪者の多い福岡県方面への重点的PRを |

| | |
|---|---|
| | 継続して行っていく。<br><br>（県としての方策）<br>熊本県における都市農村交流活動、特に人材育成と教育旅行受け入れのモデル地域として拠点と位置づけている。<br>平成２１年秋より福岡県久留米市の雑穀卸業ベストアメニティ社による農業参入が決まっており、消費者らによる新たな交流が見込まれるため、重点的に支援していく。 |
| 年度別計画 | １年目（21年度）：<br>農村体験ツーリズム参加校を8校確保する<br>施設パンフレット等の作成<br>町内の有力観光地から地元朝市など草の根的イベントにまで、町全体の連携強化<br>宮原地区のタウンツーリズムの展開、旧国鉄宮原線廃線跡活用検討<br>平成17年を最後に中止となっていたウォーキングイベント「ツーデーウォーク（旧ツーデーマーチ）」を実験的に復活させる<br>２年目（22年度）：<br>農村体験ツーリズムの参加校10校程度に増やす<br>町内の有力観光地から地元朝市など草の根的イベントにまで、町全体の連携強化<br>旧国鉄宮原線廃線跡の旅行商品化（JR九州等との連携）<br>ツーデーウォークの継続開催<br>阿蘇カルデラツーリズム等九州新幹線全線開業を向けた取り組みとの連携（イベント開催等） |

## 3　目標・指標の達成に向けた方策の各年度実績（改善計画策定した翌年度以降、目標・指標達成予定年度まで毎年度作成）

### （1）元気な地域づくり計画の目標

| | |
|---|---|
| 本年度実施予定方策 | 目標１：体験教育ツーリズムの促進（ソフト事業）　農村体験ツーリズムの参加校を8校程度に増やす<br>国鉄宮原線廃線跡の旅行商品化（JR九州との連携）<br>目標２：受け入れ家庭の育成（ソフト事業）　受け入れ農家向け講習及び農村体験ツーリズムの実践<br>目標３：ツーリズム情報の受発信の促進（ソフト事業）　パンフレットの作成<br>目標４：農業生産基盤の確立（ハード事業）　（省略） |
| 本年度実績及び成果 | |
| 所　　見<br>（達成見込み等） | （計画主体）<br>（県） |

### （2）目標を定量化する指標

| | |
|---|---|
| 本年度実施予定方策 | 入り込み客数の増加 |
| 本年度実績及び成果 | |
| 所　　見<br>（達成見込み等） | （計画主体）<br>（県） |